



新しい年が始まって半月が過ぎました。2022年、令和4年という表現には慣れましたか？学校内では新春を飾る花や縁起物に新しい年を感じています。

## 校内に春を見つけました



年末年始には雪が舞いましたね。米子市内ではそれほどの積雪ではなかったかもしれませんが、郡部ではどうだったのでしょうか。私が東部の実家に帰った際には写真のような積雪でした。車を掘り出すのに一苦労です。数台の四輪駆動の車もタイヤが浮いて身動き不能になっていました。



さて、雪の降る正月にはこの歌が浮かんできます。

あらた  
新しき 年の初めの 初春の 今日降る雪の いや重け吉事  
し よごと

日本最古の歌集とさる万葉集の最後に詠まれた大伴家持の歌です。これは「新しい年のはじめにあたって、このようなきれいな雪が降りつづいている。今年もこのように美しい良い年でありますように」という意味です。大伴家持は、因幡国(鳥取県東部)の長官でした。この歌が詠まれたのは天平宝字3年(西暦759年)の正月、因幡国の庁舎で開催された新年の祝賀の会と言われています。昔は旧暦を用いていますから、現在の新暦では2月2日の立春になります。

雨の因幡に風の伯耆と昔から言われますが、東部地区は雨、雪が多く、正月を雪景色で迎えることはよくあることです。そして、この歌も新年の歌としてみなさんがよく知っています。

米工の校内でもこんな新年の景色を見つけました。なんとも気持ちが穏やかになり、新しい時間が始まったことを感じさせてくれます。お花を生けてくださった茶華道部のみなさん、お花を縁起物のグッズで引き立たせてくださった事務長さん、ありがとうございます。



今年も米工には良い年がやってくることに感じました。

生徒のみなさんは、この写真の場所を見つけましたか？

校長 松川明義